

2026年3月期 第3四半期 決算説明資料

2025年4月～2025年12月（第197期第3四半期連結累計期間）

2026年 1月 30日
日本車輛製造株式会社

目次

- 1． 2026年3月期第3四半期累計連結決算の概要
 - (1) 業績の要約
 - (2) セグメント別業績
- 2． 2026年3月期 連結通期業績見通し

業績の概要（2026年3月期 第3四半期累計期間）

売上：主に鉄道車両事業の増収により2期連続の増収

利益：主に鉄道車両事業及び輸送用機器・鉄構事業の増益により、3期連続の増益

品質向上の取り組みや低コスト化・業務の効率化の推進なども寄与

（単位：億円）

	前期	当期	増減	前期比
売上高	708	718	+ 9	+ 1.3%
営業利益	45	72	+ 26	+ 58.2%
経常利益	49	76	+ 26	+ 54.1%
（売上高経常利益率）	（7.0%）	（10.6%）	（+ 3.6%）	—
親会社株主に帰属する 四半期純利益	40	86	+ 46	+ 115.1%

セグメント別業績（2026年3月期 第3四半期累計期間）

（単位：億円）

	売上高			営業損益		
	前期	当期	増減	前期	当期	増減
鉄道車両	336	356	+ 20	16	26	+ 10
建設機械	168	156	△ 11	31	29	△ 2
輸送用機器・鉄構	160	161	+ 1	3	23	+ 20
エンジニアリング	43	42	△ 0	3	3	+ 0
その他/調整額	0	0	+ 0	△ 7	△ 10	△ 2
合計	708	718	+ 9	45	72	+ 26

※ 「調整額」は、セグメントに帰属しない一般管理費、セグメント間取引消去などを含んでいる

鉄道車両事業

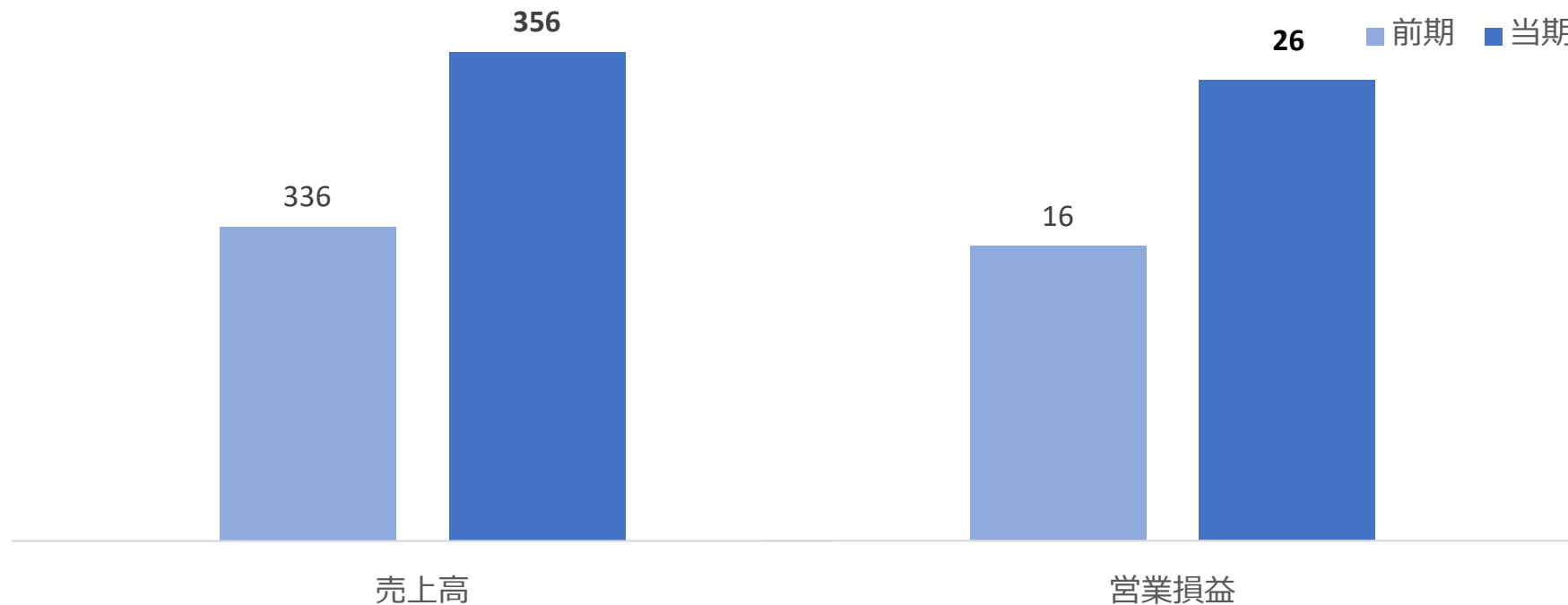
<売上高>

- J R 東海向け N 7 0 0 S 新幹線電車や 3 1 5 系電車、東京都交通局向け電車、名古屋鉄道向け電車などの売上があり、公営・民営鉄道向け車両の売上が増加したことなどにより増収。

<営業損益>

- 主に増収により増益。

(単位：億円)



建設機械事業

<売上高>

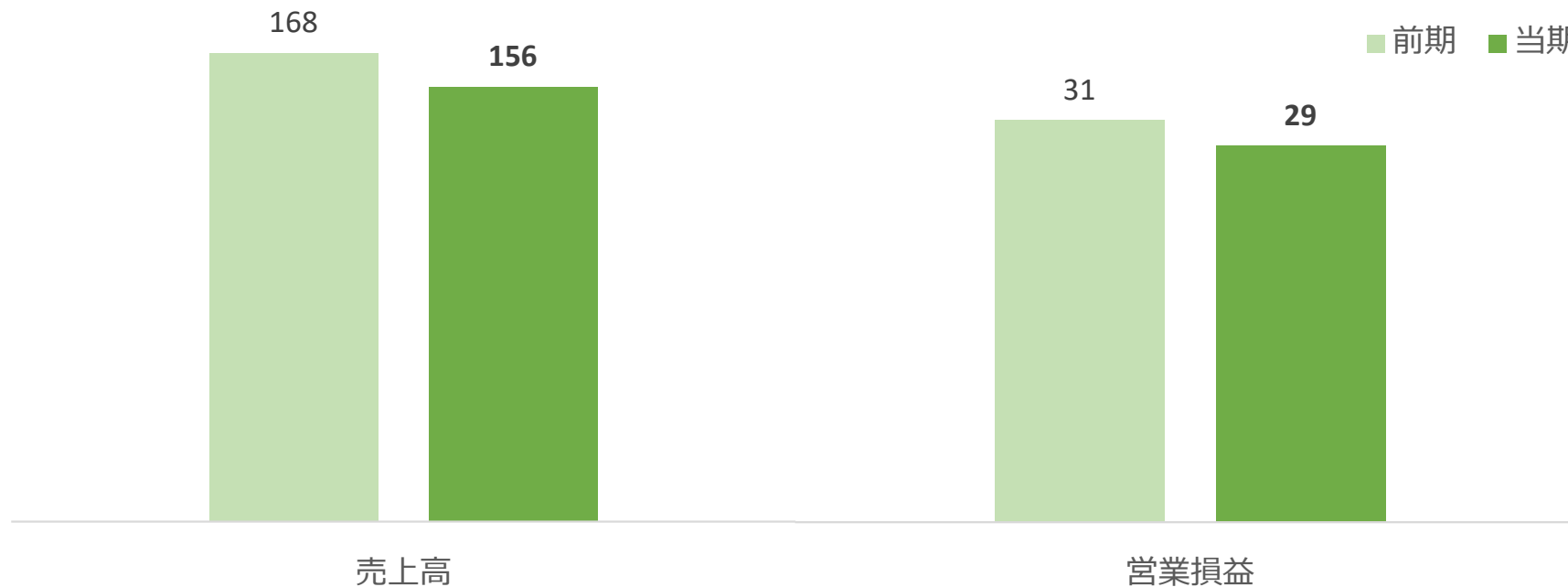
- 大型杭打機、小型杭打機、全回転チュービング装置などの売上有り、大型杭打機の売上が減少したことなどにより減収。

<営業損益>

- 主に減収により減益。

(単位：億円)

■ 前期 ■ 当期



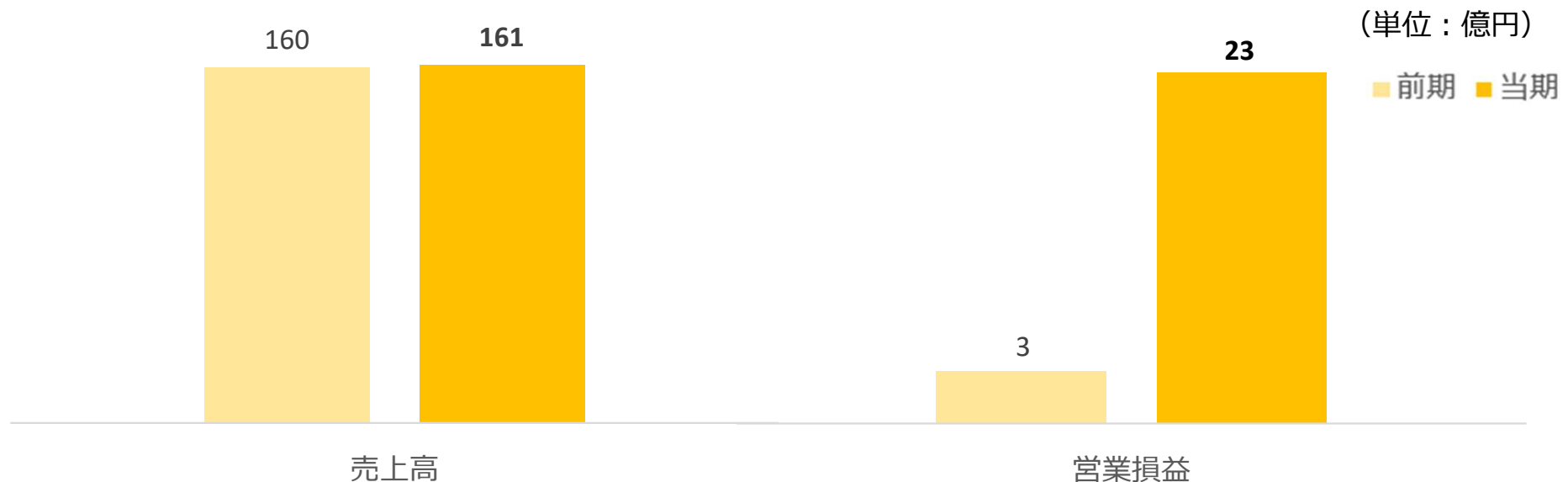
輸送用機器・鉄構事業

<売上高>

- 輸送用機器は、民生用バルクローリ、大型自走式キャリア、無人搬送装置、貨車などの売上があり、民生用バルクローリなどの売上が減少。
- 鉄構は、飯沼川高架橋、庵原高架橋、養老 I C 本線橋などの売上があり、道路橋の売上が増加。
- 事業全体では前期並み。

<営業損益>

- 鉄構事業で仕様変更に伴う契約額の見直しにより、大幅増益。



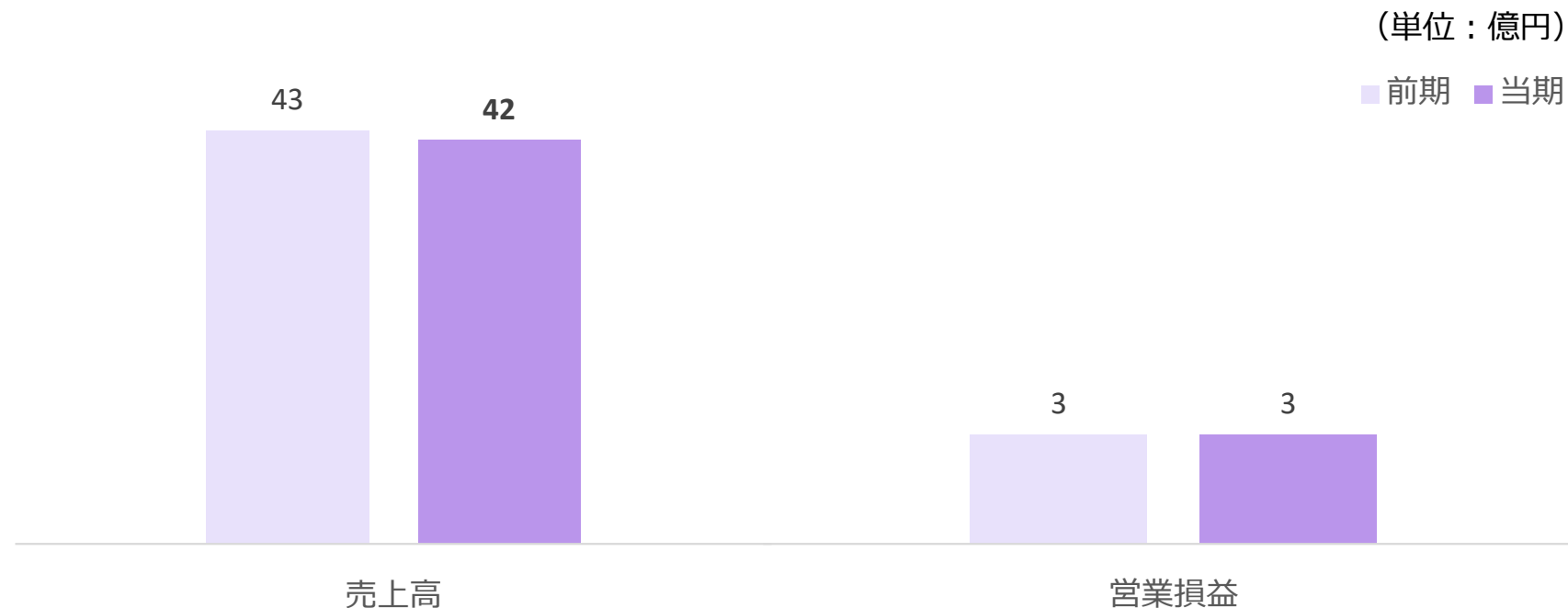
エンジニアリング事業

<売上高>

- 鉄道事業者向け機械設備のほか、家庭紙メーカー向け製造設備、各地のJ A向け営農プラントなどの売上があり、前期並み。

<営業損益>

- 前期並み。



2026年3月期 連結通期業績見通し

2025年10月28日の決算発表時に公表いたしました
通期の連結業績予想に変更はありません。

(単位：億円)

科目	2025年3月期 (実績)	2026年3月期 (業績見通し)	増減	前期比
売上高	963	980	+16	+1.7%
営業利益	69	82	+12	+18.2%
経常利益	72	86	+13	+17.8%
(売上高経常利益率)	(7.6%)	(8.8%)	(+1.2%)	—
親会社株主に帰属する 当期純利益	64	80	+15	+24.7%

日本車両

※本資料の業績見通しに記載されている将来の数値は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績は様々な要因により大きく異なる可能性があります。